

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-199244

(43) 公開日 平成7年(1995)8月4日

(51) Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 F 1/35				
H 0 4 B 3/04		A 4229-5K		
10/02				
10/18		9372-5K		
			H 0 4 B 9/00	M
			審査請求 未請求	請求項の数4 O L (全5頁)

(21) 出願番号 特願平6-542

(22) 出願日 平成6年(1994)1月7日

(71) 出願人 000004226

日本電信電話株式会社

東京都千代田区内幸町一丁目1番6号

(72) 発明者 岡村 治男

東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日

本電信電話株式会社内

(74) 代理人 弁理士 井出 直孝 (外1名)

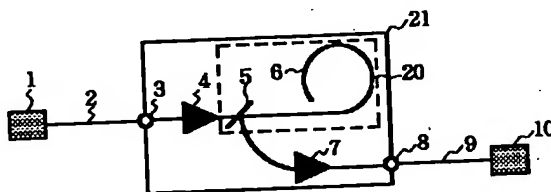
(54) 【発明の名称】 光波形劣化補償装置

(57) 【要約】

【目的】 位相共役波を用いる光波形劣化補償装置において、効率良く位相共役波を発生させる。

【構成】 光ファイバケーブルにおいて発生する誘導ブリルアン散乱を用いて位相共役波を発生させる。

【効果】 簡単な構成で効率良く、しかも波長をほとんど変えることなく位相共役波を発生させることができる。分散の影響以外の原因(光非線形現象の影響等)による波形の劣化も一括して効率良く補償することができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 光ファイバ伝送路の途中に挿入され、その伝送路の送信側に接続される光入力端子(3)と、前記伝送路の受信側に接続される光出力端子(8)と、この光入力端子(3)から入力される光信号の位相共役波を発生させる位相共役波発生部(20)と、前記光入力端子(3)から入射する光信号を前記光出力端子(8)に結合するとともに前記位相共役波発生部(20)が発生する位相共役波を前記光出力端子(8)に結合する分岐部(5)とを備えた光波形劣化補償装置において、前記位相共役波発生部(20)は、誘導ブリルアン散乱光の大部分がその一端に戻るに十分な長さを有する請求項1記載の光波形劣化補償装置。

【請求項2】 前記光ファイバケーブル(6)は、前記一端から入射する光エネルギーによる誘導ブリルアン散乱光の大部分がその一端に戻るに十分な長さを有する請求項1記載の光波形劣化補償装置。

【請求項3】 前記光ファイバ伝送路のほぼ半分の位置に挿入される請求項1記載の光波形劣化補償装置。

【請求項4】 前記光入力端子(3)と前記分岐部(5)との間、および前記分岐部(5)と前記光出力端子(8)との間にそれぞれ挿入された光増幅器を備えた請求項1記載の光波形劣化補償装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は光通信に利用する。特に、長距離光伝送システムの中にあつて波長分散や光学非線形性によって生じる信号波形の劣化を位相共役波を利用することによって補償する技術に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来から光信号の位相共役波を利用することによって、光通信方式の信号波形の劣化を補償する技術が知られている。この原理は、文献(Amon Yariv 著 "Introduction to optical electronics" 原書第3版の訳本：丸善書店「光エレクトロニクスの基礎」pp539-540)に「ひずみ補正定理」として述べられている。そして、このような目的のために位相共役波を発生させる方法として非線形光学結晶を用いる方法や、最近では光ファイバ内、あるいは半導体レーザ増幅器内の四光波混合を利用する方法が示されている。

【0003】従来例を図4を参照して説明する。図4は従来例の光波形劣化補償装置のブロック構成図である。光送信部1から送信された光信号は、光ファイバケーブル2を介して光波形劣化補償装置21の光入力端子3に到達する。この光信号は位相共役波発生部20に入力され、この光信号の位相共役波が発生される。この光信号の入力波形と出力波形とは対称になっており、光出力端子8および光ファイバケーブル9を介して光受信部10により受信される。

【0004】次に、波形劣化補償の原理を説明する。光波形劣化補償装置1を光ファイバケーブル2および9の中間地点に挿入する。光ファイバケーブル2および9はほぼ長さが等しく例えば数百kmである。このとき、光ファイバケーブル2および9の伝送特性が同一であるとすると、光入力端子3に到達した光信号がすでに受けている劣化特性と、光出力端子8から出力される光信号が光受信部10に到達するまでにこれから受けることが予想される劣化特性とはほぼ同特性である。したがって、光入力端子3に到達した光信号と対称の光信号を光出力端子8から出力すれば、光ファイバケーブル9により劣化を受けることにより、この光信号は光送信部1から送信された元の信号に近い波形に復元される。このようにして、波形劣化補償が行われる。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】これまで知られている四光波混合による位相共役波の発生には20 dBm以上の高いパワーの励起光源が別に必要であつて、この励起光源にはレーザ光源と光アンプの組合わせが必要なので構成が複雑になる。このように高いパワーの励起光源を用いても現在の技術では位相共役波の発生効率(信号光パワーに対する位相共役波パワーの比)は1/100以下である。さらに、この構成では、位相共役波は励起光波長に対してもとの信号波長と対称の波長で発生する。位相共役波を利用して信号波形の劣化を補償するにあつて前半の光伝送路を伝播する信号の波長と後半の光伝送路を伝播する位相共役波の波長が異なると、当然、波長劣化を補償する際に誤差を生じ、好ましくない。この制約のため、四光波混合にもとづく従来の構成で補償できるのは分散の影響による波形の劣化のみであつて、それ以外の原因(光非線形現象の影響等)による波形の劣化を補償するのは困難であつた。

【0006】本発明は、このような背景に行われたものであつて、誘導ブリルアン散乱を利用して高い効率で位相共役波を発生させ、これによって長距離光ファイバ通信方式における信号波形の劣化を補償する光波形劣化補償装置を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、送信側から到来する光信号をその光信号の位相共役波を発生させる位相共役波と結合させて受信側に送出する。ここで、本発明の特徴とするところは、位相共役波発生部は、誘導ブリルアン散乱を生じさせる光ファイバケーブルであるところにある。この誘導ブリルアン散乱を生じさせる光ファイバケーブルにより、効率良く所望の位相共役波を発生させることができる。また、本発明の光波形劣化補償装置には光増幅器を備えることが望ましい。

【0008】すなわち、本発明は、光ファイバ伝送路の途中に挿入され、その伝送路の送信側に接続される光入力端子(3)と、前記伝送路の受信側に接続される光出力

力端子(8)と、この光入力端子(3)から入力される光信号の位相共役波を発生させる位相共役波発生部(20)と、前記光入力端子(3)から入射する光信号を前記光出力端子(8)に結合するとともに前記位相共役波発生部(20)が発生する位相共役波を前記光出力端子(8)に結合する分岐部(5)とを備えた光波形劣化補償装置において、前記位相共役波発生部(20)は、誘導ブリルアン散乱を生じさせる光ファイバケーブル(6)を備え、この光ファイバケーブル(6)の一端が前記分岐部に接続されたことを特徴とする。

【0009】前記光ファイバケーブル(6)は、前記一端から入射する光エネルギーによる誘導ブリルアン散乱光の大部分がその一端に戻るに十分な長さを有することが望ましい。その光ファイバケーブル(6)の長さは、実用的には1~30kmが望ましく、さらに10~20km程度であることが望ましい。

【0010】本発明の装置は、前記光ファイバ伝送路のほぼ半分の位置に挿入されることがよい。

【0011】前記光入力端子(3)と前記分岐部(5)との間、および前記分岐部(5)と前記光出力端子(8)との間にそれぞれ挿入された光増幅器を備えることが望ましい。

【0012】

【作用】本発明は、位相共役波を利用することによって光ファイバケーブルを用いた光通信の信号波形の劣化を補償するシステムの構築にあたって、従来のように光ファイバケーブル内、あるいは半導体レーザー増幅器内の四光波混合を利用して位相共役波を発生させるのではなく、光ファイバケーブル内の誘導ブリルアン散乱を利用する。

【0013】これまで誘導ブリルアン散乱と、光ファイバケーブルを用いた長距離光通信との関係について知られているのは、そのマイナス面だけであった。すなわち、光ファイバケーブル中を長距離にわたって光信号を伝送するためには光ファイバケーブルにできるだけ大きな光信号パワーを入射する必要がある。しかし、入射光信号パワーが約10dBmを越えると誘導ブリルアン散乱が発生し、入射パワーの大半が入射端に戻ってきまう。そのため、光ファイバケーブルに入射させることのできる光信号パワーの上限が制限されることが知られている。このようにして入射される光信号パワーの大部分が誘導ブリルアン散乱として戻ってくるが、本発明は、この誘導ブリルアン散乱光が入射光に対して位相共役の関係にあることに着目し、伝送波形劣化の補償に応用することを提案するものである。

【0014】本発明では、四光波混合の代わりに光ファイバケーブル内の誘導ブリルアン散乱を利用しているので位相共役波の発生効率は通常1/10以上であって、1/2以上の極めて高い効率を得ることも可能である(従来の四光波混合法の10倍から50倍以上)。さら

に波長変化が極めて少ない位相共役波を発生できることも大きな利点である。誘導ブリルアン散乱光の波長の変化は信号光に対して約0.1nm程度と少ない(四光波混合によって位相共役波を発生させた実験の報告では、位相共役波の波長は元の信号から6nmないし8nmも変化している)。その結果、本発明によって発生させた位相共役波では分散の影響以外の原因(自己位相変調や四光波混合(特に波長多重系の場合)のような光非線形現象の影響)による波形の劣化も一括して効率良く補償することができる。

【0015】本発明は、昨今の光増幅器の出現により、光信号を光波形のまま1万kmにも及ぶ超長距離を伝送できるようになった光通信技術の性能をさらに向上させるために有用である。

【0016】

【実施例】本発明第一実施例の構成を図1を参照して説明する。図1は本発明第一実施例装置のブロック構成図である。

【0017】本発明は、光ファイバケーブル2および9の途中に挿入され、光ファイバケーブル2に接続される光入力端子3と、光ファイバケーブル9に接続される光出力端子8と、この光入力端子3から入力される光信号の位相共役波を発生させる位相共役波発生部20と、光入力端子3から入射する光信号を光出力端子8に結合するとともに位相共役波発生部20が発生する位相共役波を光出力端子8に結合する分岐部5とを備えた光波形劣化補償装置21である。

【0018】ここで、本発明の特徴とするところは、位相共役波発生部20は、誘導ブリルアン散乱を生じさせる散乱用光ファイバケーブル6を備え、この散乱用光ファイバケーブル6の一端が分岐部5に接続されるところにある。散乱用光ファイバケーブル6は、前記一端から入射する光エネルギーによる誘導ブリルアン散乱光の大部分がその一端に戻るに十分な長さを有する。また、光ファイバケーブル2および9の長さはほぼ等しい。さらに、光入力端子3と分岐部5との間、および分岐部5と光出力端子8との間にそれぞれ挿入された光増幅器4および7を備えている。

【0019】次に、本発明第一実施例の動作を説明する。光送信部1からの強度変調光は入力側の光ファイバケーブル2を経て光入力端子3に至る。この間、光信号波形は光ファイバケーブル2で波長分散の他、自己位相変調や四光波混合(特に波長多重系の場合)のような光非線形現象の影響を受けて歪む。この信号は光増幅器4で増幅されて分岐部5を経て散乱用光ファイバケーブル6に入力される。分岐部5は具体的には、一般のファイバカップラまたは半透過鏡である。散乱用光ファイバケーブル6は信号の入射を受けて誘導ブリルアン散乱を生じ、この誘導ブリルアン散乱光は散乱用光ファイバケーブル6中を逆進し、分岐部5において光ファイバケーブ

5  
ル2による光伝送路から分離され、光増幅器7で増幅された後、光出力端子8に接続される出力側の光ファイバケーブル9による光伝送路を伝搬し光受信部10に至る。散乱用光ファイバケーブル6が光信号の入射を受けて発生する誘導ブリルアン散乱光は入力信号と位相共役の関係にある(参考文献:V.Wang and C.R.Giuliano, "Correction of phase aberrations via stimulated Brillouin scattering", Opt Lett., Vol.2, No.1, pp.4-6, 1978: T.A.Wiggins, R.V.Wick and D.H.Rank, "Stimulated effects in N<sub>2</sub> and CH<sub>4</sub> gases", Appl.Opt., Vol.5, No.6, pp.1 10 069-1072, 1966)。

【0020】ここで、光波形劣化補償装置21が入力側の光ファイバケーブル2と出力側の光ファイバケーブル9のちょうど中間地点に挿入され(すなわち、両ファイバが同一長さ)、しかも両光ファイバケーブルの伝送特性に關係するファイバパラメータが同一であるとする。と、入力側の光ファイバケーブル2を伝搬する過程で劣化した信号波形は、光波形劣化補償装置21で入力信号波形に対して位相共役の關係にある波に変換されて出力側の光ファイバケーブル9を伝播し光受信部10に到達 20 するとき、入力側の光ファイバケーブル2の入口を出発したときの波形状態に戻る。これによって波形劣化を回復することができる。

【0021】ここで、散乱用光ファイバケーブル6としては、信号の入射を受けて誘導ブリルアン散乱を効率良く生じる必要があつて、高い信号パワー密度を得ようとする使用波長におけるモードフィールド径が小さい単一モードファイバが望ましい。一般に誘導ブリルアン散乱を生じるための信号強度は10 dBm以上必要で、散乱用光ファイバケーブル6に必要な長さは10~20 km程度 30 以上と見積もられる。散乱用光ファイバケーブル6の端部は、信号がそのまま反射して誘導ブリルアン散乱光に混入するのを防ぐために無反射処理される必要がある。

【0022】また、図2は、図1の入力側の光ファイバケーブル2および出力側の光ファイバケーブル9の途中にいくつかの光増幅器11、12、13、14(ここでは一例としてそれぞれ2台だけずつ図示している)が直列に接続される構成を示す図であるが、この場合には光増幅器11、12、13、14それぞれで自然放出光雑音が発生し、これらは互いにランダムで独立であるから、本発明の基本である位相共役ではこの影響は原理的に補償することはできない。しかし波長分散、自己位相変調あるいは四光波混合(特に波長多重系の場合)等によって生じる波形劣化の割合に比べて、伝送路の途中の光増幅器11、12、13、14で発生する自然放出光雑音の影響で波形が劣化する割合は少ない。したがって、図2のように伝送路の途中にいくつかの光増幅器が挿入されていても、本発明の補償装置は充分有効に動作する。

【0023】次に、本発明第二実施例を図3を参照して 50

説明する。図3は本発明第二実施例装置のブロック構成図である。図3は、本発明第一実施例で用いた片方向動作の光増幅器4、7の代わりに双方向動作できる光増幅器15を用いた構成例である。光増幅器15は一つでよく、部品点数の低減化がはかれるとともに、散乱用光ファイバケーブル6の一箇所を加工すればよく、加工工数の低減がはかれる。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、位相共役波を利用することにより光ファイバ通信システムの信号波形の劣化を補償するに際して、従来のように光ファイバ内、あるいは半導体レーザ増幅器内の四光波混合を利用するのではなく、ファイバ内の誘導ブリルアン散乱を利用して簡単な構成で効率良く、しかも波長をほとんど変えることなく位相共役波を発生させることができる。本発明では位相共役波発生部が光ファイバであるから、通信用光ファイバケーブルとなじみがよい。したがって、分散の影響以外の原因(光非線形現象の影響等)による波形の劣化も一括して効率良く補償することが 40 できる大きな利点がある。

【0025】これにより、高利得で低雑音の光増幅器が開発された現在、光伝送システムの伝送距離(光信号を電気信号に変換せずに伝送できる距離)を制限する要因は大別してファイバの波長分散と、光カー効果にもとづく諸々の光非線形現象の二種類である。これまで、前者については多くの克服法が提案、実証され、今後の進展も期待されているが、後者の対策はほとんど提案されていない。したがって、ファイバの分散制限と非線形制限の双方を効果的に克服するための具体的な装置構成を提案した本発明は、これからの光伝送システムの伝送距離制限の拡大に寄与するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明第一実施例装置のブロック構成図。

【図2】入力側の光ファイバケーブルおよび出力側の光ファイバケーブルの途中に光増幅器が直列に接続される構成を示す図。

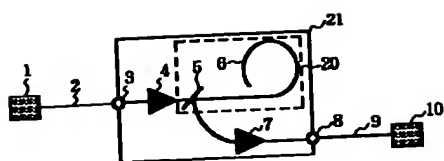
【図3】本発明第二実施例装置のブロック構成図。

【図4】従来例の光波形劣化補償装置のブロック構成図。

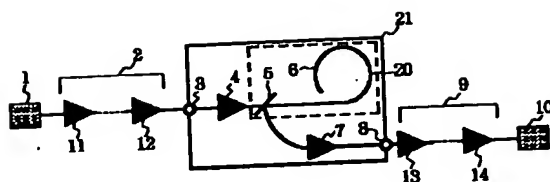
【符号の説明】

- 1 光送信部
- 2、9 光ファイバケーブル
- 3 光入力端子
- 4、7、11~15 光増幅器
- 5 分岐部
- 6 散乱用光ファイバケーブル
- 8 光出力端子
- 10 光受信部
- 20 位相共役波発生部
- 21 光波形劣化補償装置

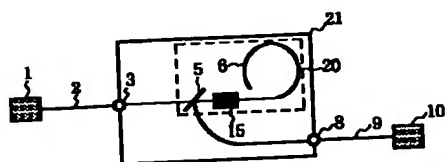
【図1】



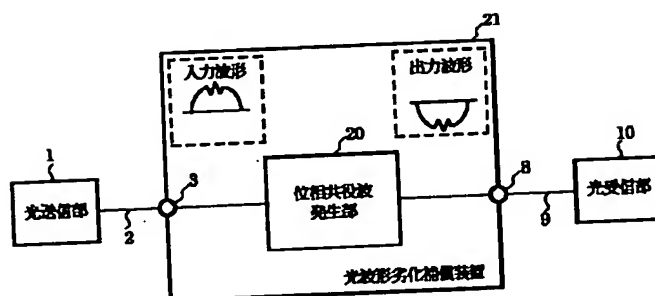
【図2】



【図3】



【図4】



PAT-NO: JP407199244A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07199244 A

TITLE: DEVICE FOR COMPENSATING OPTICAL WAVEFORM  
DETERIRATION

PUBN-DATE: August 4, 1995

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OKAMURA, HARUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NIPPON TELEG & TELEPH CORP <NTT>

N/A

APPL-NO: JP06000542

APPL-DATE: January 7, 1994

INT-CL (IPC): G02F001/35, H04B003/04 , H04B010/02 , H04B010/18

ABSTRACT:

PURPOSE: To generate phase conjugate wave in high efficiency by providing an optical fiber cable generating stimulated Brillouin scattering in a phase conjugate generation part.

CONSTITUTION: This device is provided with the phase conjugate wave generation part 20 generating the phase conjugate wave of an optical signal inputted from a light input terminal 3, a branch part 5 coupling the optical signal made incident from the light input terminal 3 to a light output terminal 8 and coupling the phase conjugate wave generated by the phase conjugate wave generation part 20 to the light output terminal 8. Then, the phase conjugate wave generation part 20 is provided with the scattering optical fiber cable 6 generating the stimulated Brillouin scattering, and one end of the cable 6 is connected to the branch part 5. The cable 6 is provided with a length sufficient for that the greater part of a stimulated Brillouin scattering beam

by optical energy incident from one end is returned to the one end. Further, it is preferable that optical amplifiers 4, 7 are inserted and provided between the light input terminal 3 and the branch part 5 and between the branch part 5 and the light output terminal 8 respectively.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO